

# 東京管区気象台 業務概要

- 東京管区気象台は、関東甲信、北陸、東海地方の1都16県を管轄しており、管内に設置された気象台が行う業務の管理・指導を行っている。
  - ・各県には地方気象台が設置されており、気象・地震・津波・火山などの観測・情報の提供や、地元自治体等の防災対応を支援する取組を行っている。
  - ・羽田、成田、中部の各国際空港には、航空地方気象台が設置されており、航空機向けの観測や気象情報の提供を行っている。
- あわせて、東京管区気象台は東京都を対象とした業務を担当している。



東京管区気象台内の管轄図

出典: 国土地理院 地理院タイル(白地図)を加工して作成

## 主な業務

- 1 気象観測
  - ・地上気象観測と地域気象観測
  - ・気象レーダー観測
  - ・高層気象観測
- 2 防災気象情報と気象予報
- 3 航空気象観測
  - ・航空気象予報・気象情報
- 4 地震・津波の観測と情報
  - ・火山の観測と情報
- 5 地球環境・海洋
  - ・地球環境 (温暖化、気候変動対策支援)
  - ・季節予報
  - ・沿岸波浪観測
  - ・海況情報
- 6 地方公共団体等との連携

## 関係機関や自治体向けの取組

平常時

- 区市町村職員を対象とした講習会
- 地域防災計画修正、避難勧告等の判断・伝達マニュアル等の策定に係る支援
- 学校防災等防災教育に対する支援
- テレビ・ラジオ等取材対応
- 一般住民向け出前講座
- あなたの町の予報官テレビ



都内の各市町村職員を対象として東京都防災気象講習会

顕著現象時

- 都庁で開催される台風説明会での気象解説
- ホットライン等による即時的な気象解説・助言
- テレビ等への出演、会見、取材対応

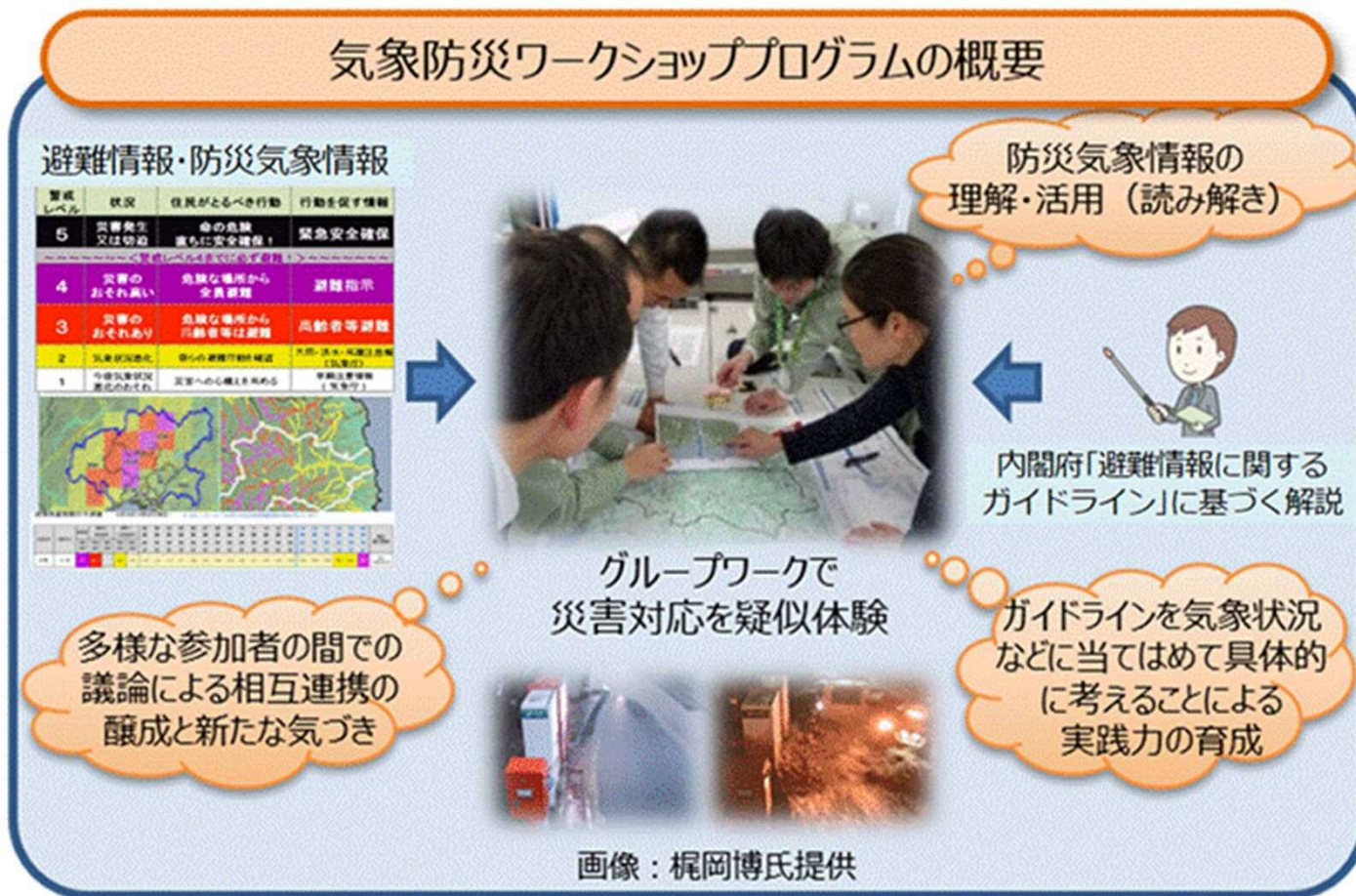
発災後

- 都道府県、市町村の災害対策本部等へ気象庁防災対応支援チーム（JETT）を派遣
- 災害時気象支援資料の提供
- 気象速報の作成
- 市町村等との振り返り



防災教育ポータルサイト

- ◆ 地元気象台から発表される防災気象情報に基づく地方公共団体の防災対応を疑似体験
- ◆ 各種防災気象情報の理解や有効活用、体制の強化や避難情報に関する検討を行うことにより防災対応力の向上を目指す
- ◆ コロナ禍を踏まえ、オンライン会議システムも活用し実施している

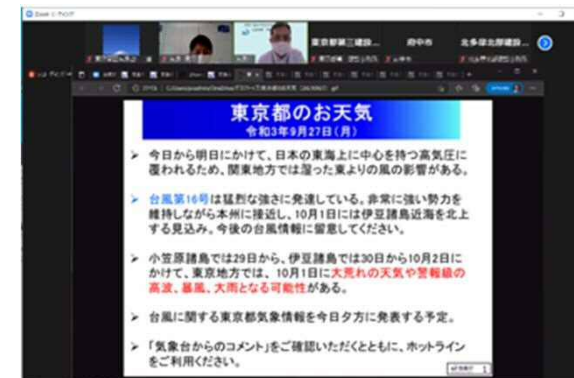


減災に向けた取組として、東京都の区市町村向けに平日の11時15分からWeb会議サービスを用いて、毎日気象解説を実施しています。

- ・ 「あなたの町の予報官テレビ」 (以下、「あな町TV」) の名称でZoomミーティングにより実施。
- ・ 平日11時15分から5分程度区市町村向けに気象解説を実施。
- ・ 天気図や気象衛星を用いた実況、警報等の見込み、週間天気予報等を解説。
- ・ 発言やチャットにより質問も受け付け、東京都担当予報官が回答。
- ・ 放送終了後、録画をメールで共有。その際、ポイントをまとめた資料をPDFにして添付。
- ・ 台風接近時には、台風説明会としてより詳しい資料を用いて説明を実施。



予報官による解説の様子



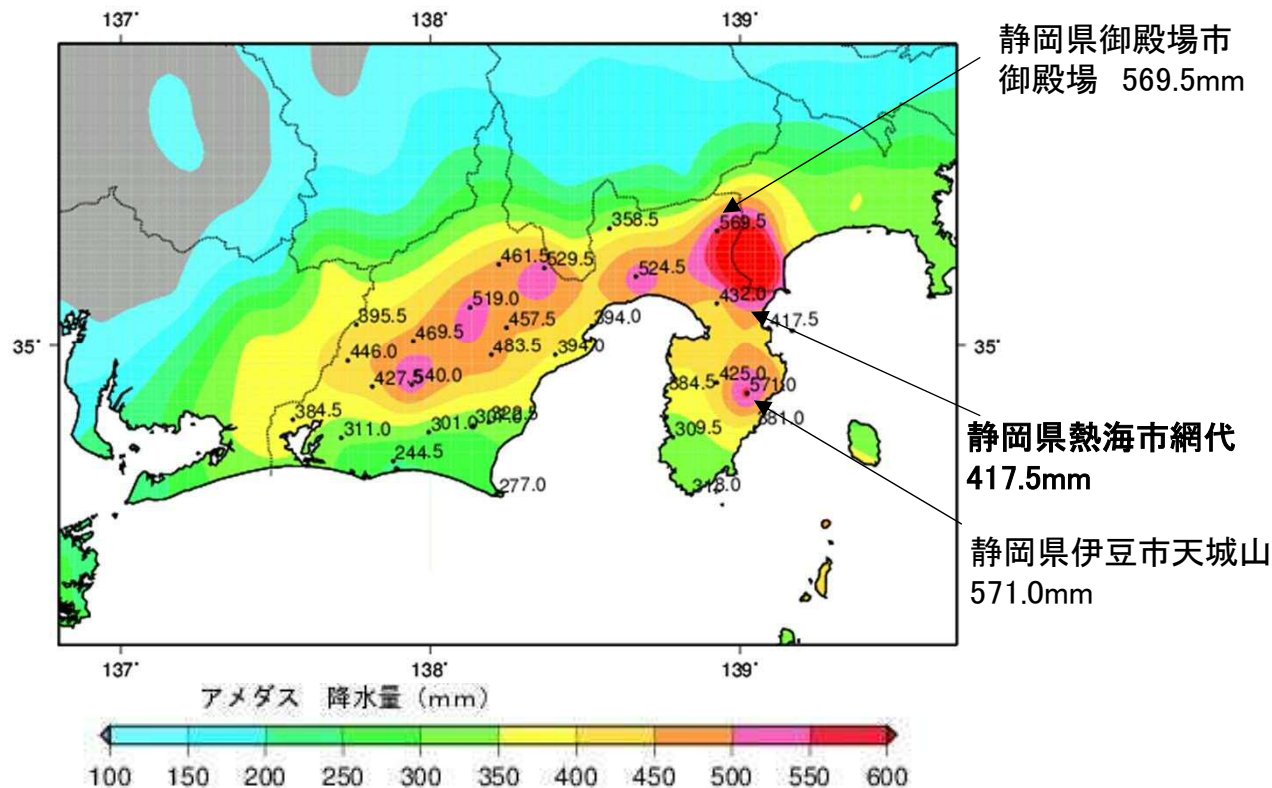
あな町TVの画面のキャプチャ

6月末から梅雨前線が北上し、西日本から東日本に停滞した。前線に向かって暖かく湿った空気が次々と流れ込み、大気の状態が非常に不安定となったため、東海地方から関東地方南部を中心に記録的な大雨となった。

数日間にわたって断続的に雨が降り続き、静岡県の複数の地点で72時間降水量の観測史上1位の値を更新するなど、記録的な大雨となった。

この大雨により静岡県熱海市で土石流が発生したほか、河川の増水や低地の浸水が発生した。

静岡地方気象台は、土砂災害による応急復旧活動を支援するため、7月3日19時にJETT（気象庁防災対応支援チーム）を派遣し、東京管区気象台からの応援と合わせ、8月31日まで気象解説を実施した。また7月7日に臨時観測所（熱海伊豆山）を設置し、雨や気温などによる二次災害を防ぐための観測データとして提供している。



期間降水量分布図（6月30日18時～7月5日00時）



熱海市災害対策本部での気象解説



熱海市に臨時観測所を設置（熱海伊豆山）